

# 牧之原市地域公共交通計画 概要版（案）



## 第1章 計画の概要

### 【計画の目的】

本計画は、本格的な人口減少・高齢化社会を迎え、公共交通を取り巻く環境が厳しくなる中で、公共交通の維持・活性化を図るため、牧之原市が目指す公共交通の方向性を示すものです。また、路線バス、自主運行バス、デマンド乗合タクシー等の連携をより一層高めるなど、牧之原市が交通事業者や市民と協働で取り組む施策を示すことを目的とします。

### 【計画の期間】

本計画の期間は、第3次牧之原市総合計画の前期基本計画の計画期間と合わせ、令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度）までの4年間とします。

### 【計画の区域】

本計画の対象区域は、牧之原市全域とします。なお、周辺市町も含めた広域的な視点で検討します。

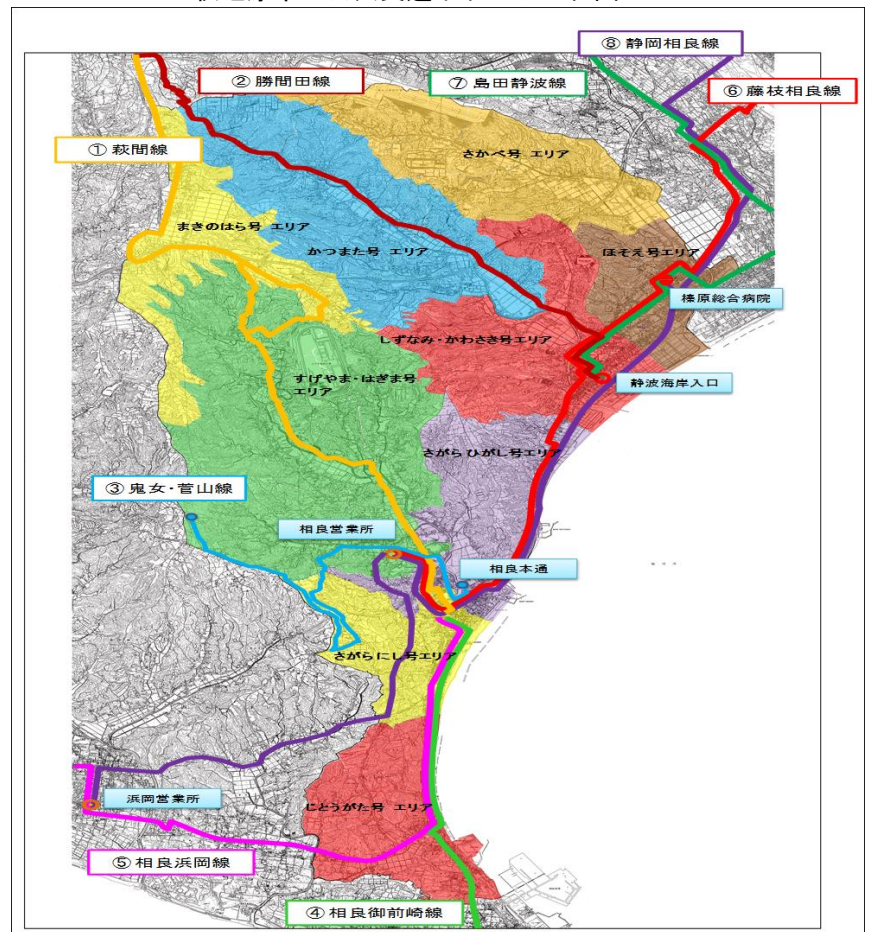
## 第2章 牧之原市の公共交通を取り巻く現状

### 【牧之原市の公共交通ネットワーク】

牧之原市内の公共交通は、しずてつジャストライン株式会社が運行する路線バス路線が3路線、牧之原市が隣接市と共同で運行する自主運行バス路線が5路線運行しています。市内には鉄道駅はありませんが、路線バスや自主運行バスで静岡駅、藤枝駅、島田駅、金谷駅と結ばれています。

また、市内にはタクシーが運行しており、平成29年10月から坂部地区でデマンド型乗合タクシーの運行を開始し、令和4年12月の相良市街地での運行開始をもって、市内全域導入が完了しました。その他、相良営業所から渋谷マークシティを結ぶ渋谷ライナーや、東名高速道路を通る高速バスが運行しています。

▼牧之原市の公共交通ネットワーク図



## 第3章 牧之原市の公共交通の課題

### ①ニーズ把握調査の結果

調査		主な調査結果	視点
1	事業者・関係機関等ヒアリング調査	・運転手確保が大きな課題	・事業者支援、連携
		・福祉関係など、関係団体の意見を聞く場が必要	・関係者との協議、連携
		・高台や空港との接続による活性化が期待できる	・賑わい施設との接続
2	中学3年生保護者アンケート調査	・通学方法で進学先が限られている	・交通ネットワークの改善
		・学校によって進学先の方が大きく異なる	・親の送迎負担軽減
		・西部方面へのアクセス改善が期待されている	・西部方面との接続
3	バス利用者アンケート調査	・特急静岡相良線の利便性の高さを感じる	・特急静岡相良線の活用
		・バス停環境整備を望む意見が多い	・バス利用者の利便向上
		・利用者の7割が学生であり、相良本通での乗換えを不便に感じる高校生が多い	・通学利便の向上
4	市内企業アンケート調査	・掛川市などの西部方面との接続を期待	・西部方面との接続
		・自家用車から公共交通への転換は難しい	・環境施策を通じた企業連携
5	デマンド乗合タクシー利用者アンケート調査	・利用者にとって生活の足として重宝している ・特定施設拡大等の改善の余地がある。	・デマンドの利便向上、利用促進
6	バス乗降調査	・通勤通学時間帯以外の利用が落ち込んでおり、特に土日祝は早急な改善が必要 ・バス停ごとの利用状況を把握し、ほとんど使われていないバス停も存在する	・持続可能な運行のための見直し ・バスの利用促進（モビリティマネジメント）の推進
7	榛原高校関係者との意見交換会	・学生の確保と通学手段は密接な関係にある	・学生確保の視点を取り入れた施策
		・通学の時刻改正や待ち時間の短縮などの改善要望がある	・通学利便の向上

### ②牧之原市地域公共交通計画の理念

「住み続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」を支える地域公共交通の構築  
～「夢に乗るまち 牧之原」の推進～

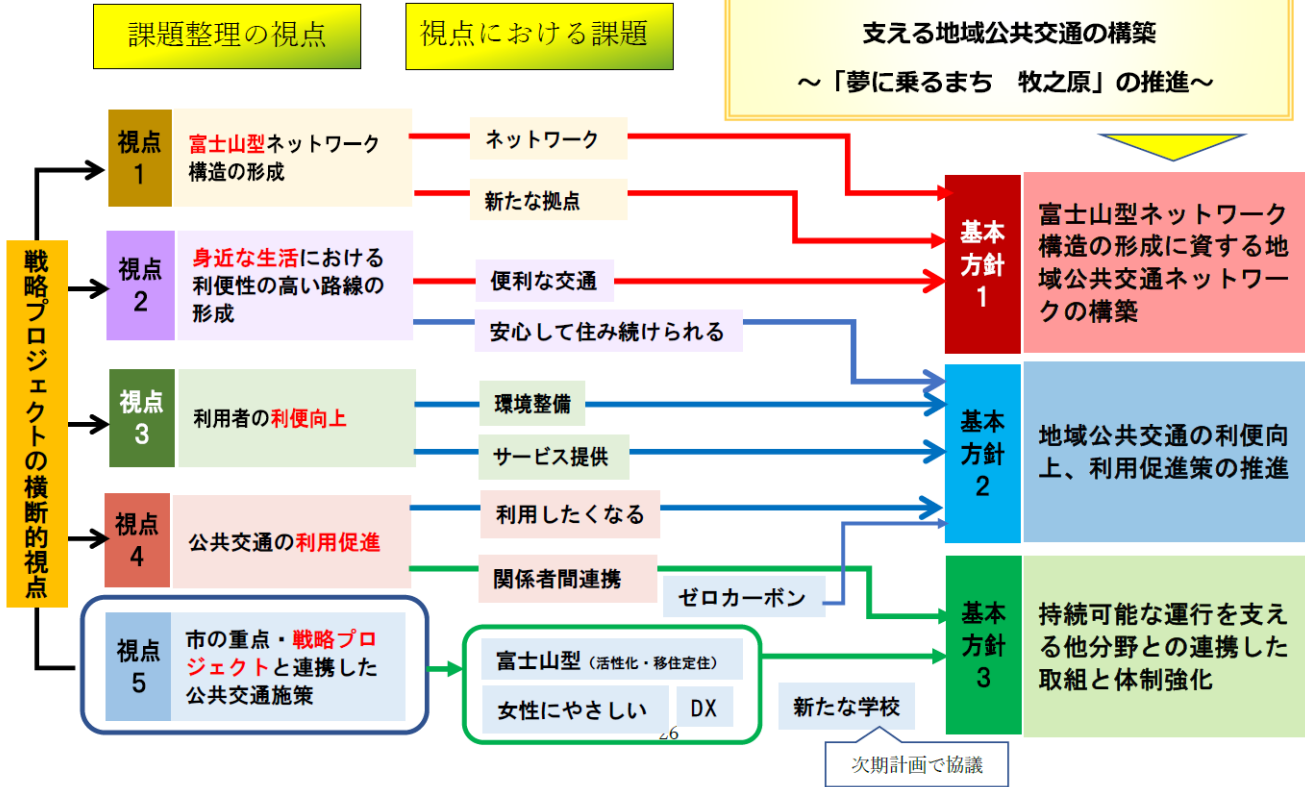
## 第4章 計画の基本方針と目標

牧之原市の地域公共交通の理念を踏まえ、本計画における3つの基本方針を示します。

本計画の目標値については、3つの基本方針のそれぞれに目標を定めます。

バスに係る項目は、新型コロナウイルスの影響を受け令和2年、令和3年は数値が大きく落ち込んでいることから、コロナ禍前の令和元年度の状況に戻すことを目標に設定します。その他の項目の目標は、直近の数値からの増加、向上に取り組みます。

【牧之原市の地域公共交通の理念】  
「住み続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」を  
支える地域公共交通の構築  
～「夢に乗るまち 牧之原」の推進～



## 第5章 目標達成に向けた施策

### ①目標達成のための施策・事業

3つの基本方針に基づく9つの目標達成のために、計画期間の令和5年度から令和8年度の4年間で実施する事業を示します。

方針	事業	取組 (重点事業のみ抜粋)
<b>基本方針 1 :</b> 富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築	1 : 沿岸部の路線の維持・再編 (幹線軸 (裾野部))	相良御前崎線、相良浜岡線：い～らやミルキーウェイスクエアを経由する経路変更
	2 : 市街地と高台エリアを結ぶ路線の再編 (幹線軸 (斜面部))	高台エリアへの接続
	3 : 富士山型山頂部からの路線の創出 (広域交流拠点連携軸 (山頂部))	高台エリアと西部方面、静岡空港を結ぶ新規路線創出
<b>基本方針 2 :</b> 地域公共交通の利便向上、利用促進策の推進	4 : 高齢者等の移手段の提供	デマンド乗合タクシーの利用促進
	5 : 拠点バス停の環境整備の推進	高台エリアバス停の待合環境の整備
	6 : 誰もが利用しやすいサービスの提供	効果的な情報提供
<b>基本方針 3 :</b> 持続可能な運行を支える他分野との連携した取組と体制強化	7 : モビリティマネジメントの推進	乗り方教室、バスイベント
	8 : 観光施策と連携した取組の推進	観光モデルルートの設定、観光イベントとの連携
	9 : 移住定住、子育て支援につながる取組の推進	子育て支援の取組 (通学利便の向上)
	10 : 自動運転技術などのDX化やICTを活用した取組の推進	自動運転車両の実証運行
	11 : 市民意見を尊重する協議体制と関係者の連携強化	運転手確保支援

取組例

事業 6 : 効果的な情報提

事業 7 : 乗り方教室

事業 11 : 自動運転車両



② 将来の交通ネットワークイメージ

計画推進後の令和9年度以降のネットワークイメージを以下に示します。富士山型ネットワーク構造を推進し、相良、榛原両市街地と高台エリアの3点を中心とした交通ネットワークにより、賑わい拠点を効率的に結ぶ中にも、生活路線としての利便向上を図ります。



第6章 計画の評価とスケジュール

事業の具体的な内容については、実施主体が主体的に検討し実施していきますが、地域公共交通会議の下部組織として、市民、交通事業者、行政が参画する『評価改善部会』の場で、評価指標の達成状況の確認や分析、事業進捗の評価を行い、意思決定機関である牧之原市地域公共交通会議に報告します。

